

1 背景とねらい

本県のりんどうは、8～9月出荷に集中しており、作期拡大を図るために遅出し（10～11月）の極晩生種が導入されている。しかし、県北部や高冷地では、早冷のため生産の不安定や茎葉が赤変して商品性が著しく低下することから、安定生産のための栽培法の確立が求められている。

そこで、ビニール被覆による生産の安定策について現地検討した結果、成果が得られたので指導上の参考に供する。

2 技術の内容

1) ビニール被覆の効果

(1) 花色（内弁）は多少薄くなるが、花全体の色合いはあざやかさが増し、茎葉の赤変も少なくなる。（表-1）

(2) 未開花本数の減少によって、採花本数が増加しL率も向上する。（表-2、3）

(3) 採花期が分散され、採花期間も延長される。

2) ビニール被覆時期の目安は、最低気温が7～8℃の頃からとする。

3) 適応地域は、県北部及び高冷地とする。

3 指導上の留意事項

1) この技術は極晩生種を対象とする。

2) ビニール被覆時期が早い程花色が薄くなり、遅すぎると効果が少ない。

3) ビニール被覆後の温度管理は、10～25℃の範囲で行う。

4) 既植畑の場合は、図-3のハウスが便利で安価である。

5) 新たに栽植する場合は、ハウスに合わせた植え付けをする。

4 当該事項にかかる試験研究課題

山村地域活性化営農試験（安代町）——（りんどうの作期拡大と品質向上）

5 参考文献、資料

昭和62～63年 山村地域活性化営農試験地事業成績書（未定稿）

6 試験成績の概要

1) 試験方法

(1) 供試品種 極晩生

(2) 試験場所 安代町 細野

(3) 栽植距離 床幅 60cm 条間 30cm 株間 18cmの2条 通路75cm

2) 主要な試験データ

表-1 品質の比較

指数

| 年 項目 試験区 次 | 花 色 | | 葉 色 | | 茎 色 | | 鮮やかさ の程度 | 総合評価 |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|------|
| | 62 | 63 | 62 | 63 | 62 | 63 | | |
| 9月20日ビニール被覆 | 4.8 | 5.4 | 0.4 | 0.4 | 1.4 | 1.4 | 1.81 | ○ |
| 9月30日 " | 5.1 | 5.4 | 0.2 | 0.9 | 1.4 | 1.7 | 1.92 | ○ |
| 対照区(露地) | 5.3 | 5.8 | 2.1 | 2.5 | 2.9 | 1.9 | 2.33 | △ |

注 花色指数 県園芸試験場作成りんどうカラーチャート使用 1うすい〜7濃厚
 葉色茎色指数 0 変化なし 1 うす赤 2 中位 3 濃赤
 あざやかさの程度 1 あざやか 2 ややあざやか 3 あざやかさ劣る

表-2 未開花状況

62年調査

| 試験区 | 株 数 | 未 開 花 本 数 (本) | 1株当り未開花本数 (本) |
|-------|-----|---------------|---------------|
| 9月20日 | 210 | 50 | 0.2 |
| 9月30日 | 281 | 47 | 0.2 |
| 対 照 | 316 | 210 | 0.7 |

表-3 出荷規格別割合

昭和63年調査

| 試験区 | 規格別割合 (%) | | | 対 比 | | |
|-------|-----------|----|----|-----|-----|-----|
| | L | M | S | L | M | S |
| 9月20日 | 34 | 35 | 31 | 117 | 103 | 84 |
| 9月30日 | 35 | 33 | 32 | 121 | 97 | 86 |
| 対 照 | 29 | 34 | 37 | 100 | 100 | 100 |